

フォワードガイダンスの見直しに向けて注目集まる ~ 英四半期インフレ報告

2014年2月10日(月)

6日の英中銀(BOE)金融政策会合(MPC)は政策金利(0.5%)及び資産買入枠(3750億ポンド)をいずれも現行のまま据え置きました。

これらはいずれも事前予想通りの結果。BOEは政策変更が無い場合、声明などの発表を見送るケースがほとんどですが(カーニー総裁の初会合となった昨年7月会合のように実施ケースもあり)今回はフォワードガイダンスがらみで発表があるのではと市場の一部で期待感があつたらしく発表直後はポンドが売られる場面も見られました。

昨年8月に示されたBOEのフォワードガイダンスでは失業率(ILO基準3ヶ月平均)が7.0%まで低下しない限り金利の引き上げを行わないと金利変更の目途として7.0%という基準を示していますが到達目途として当初は2016年4-6月期と予想していました。

しかし、英国の失業率はここ半年で急激な低下を示し先月22日に発表された最新データ(9-11月分)では7.1%となんと一番最初の予想よりも2年以上早い段階で7.0%に届きそうな情勢となっています。

ただ、たしかに労働市場は堅調で経済成長の底堅さではありますが経済的に結びつきが非常に強いユーロ圏が追加緩和に動こうというタイミングであることや、新興国市場動向などが不透明で、投資資金の質への逃避がおき、債券価格が上昇して、10年債利回りが3ヶ月ぶりの水準まで低下するなど利回り低下が堅調になっていることなど現状の英経済を取り巻く状況を鑑みの中で早期の利上げは無理筋という印象。

ガイダンスの基準に達したから直ぐに利上げに向かわなければ駄目というような縛りは元々ありませんが基準に達したことで市場の利上げ期待が過熱するとポンド高を初めいろいろと不具合もあることからBOEとしてはガイダンスの変更には迫られる状況となっています。

賃金上昇率など、基準をさらに加えることや将来の政策金利の予想を示し、市場の過度な利上げ期待を抑制することなどが変更のポイントとして考えられますが基準を変えと言うことはそう直ぐに出来ることではないためまずは変更に向けての動きを説明して行くのではと言うのが市場の大方の見方。

そのタイミングとして有力視されているのが今週12日19時半に予定されている英中銀四半期インフレ報告の場となります。現行のフォワードガイダンスも8月の同報告の公表に合わせて行われたことを考えると今回の発表の可能性が相当高いと思われます。

どこまで踏み込んだ発表になるのかは未知数ですが相当先まで利上げ時期を見送るような印象を持たせることになるとポンド売りが広がる可能性があります。